**「頂きたく」の使い方とは？言葉の意味や例文を紹介**

ビジネスメールで使用する「頂きたく」の言葉を正しく使えているでしょうか。

「頂きたく」や「頂きたく存じます」は、取引先などに何かを「してほしい」とお願いする際、頻繁に使う言葉です。

本記事は、「頂きたく」の使い方や例文を紹介します。

「頂きたく」の意味

「頂きたく」とは、誰かに「〜してもらいたい」、「〜してほしい」とお願いをする意味を持ち、敬語に当たります。「いただきたく」と平仮名で表記する場合もありますが、漢字よりも少しやわらかい印象になるため好んで使う方もいます。

「頂きたく」、「いただきたく」いずれも、「してもらいたい」意図を、「していただきたい」と謙譲語にして、相手に敬意を表して自分がへりくだった表現にしています。

「頂きたく」を使う場面と例文

以下では「頂きたく」を使う場面と例文を紹介します。

「頂きたく」を使う場面

「頂きたく」を使うのは、ビジネスメールやビジネス文書で相手に敬意を表したうえで、何らかの行動を「してほしい」とお願いする場面です。相手との関係性によって、「頂きたく」を使うかを判断します。

たとえば、上司や取引先、自社サービスの利用客（カスタマー、ユーザー）に対しては、敬語の使用が一般的なので、「〜してもらいたい」意味を込めて、「頂きたく」と書くと良いです。

しかし昨今では、社内で上司が部下に指示を出す際も、相手と「上下」ではなく「対等」、「フラットに話し合える」関係性を重要視している場合、「頂きたく」を使う場合もあるようです。

また、メールや文書だけではなく、ビジネスチャットなどの気軽な場面や、打合せや電話連絡など口頭の場合にも、「頂きたく」を使う場合があります。

「頂きたく」の例文

相手に「連絡してほしい」とお願いする場合の例文は以下です。

例文

「もし、不明点や不具合などございましたら、遠慮なくご教示頂きたく存じます。」

相手に「時間を取ってもらいたい」場合、例文は以下です。

例文

「ご多忙のところ、大変恐れ入りますが、お時間を頂きたく存じます。」

相手に何らかの回答をお願いする場合、例文は以下です。

例文

「つきましては、◯月◯日までにご回答頂きたく、何卒よろしくお願い申し上げます。」

「本日ご案内した内容につきまして、ご検討のうえ採用可否を◯月◯日までにご一報頂きたく、何卒よろしくお願い申し上げます。」

「頂きたく」3つの間違った使い方

「頂きたく」は、間違った使い方をすると、相手に失礼に当たる場合があるので注意が必要です。以下では3つの間違った使い方を紹介します。

他の敬語と合わせる

1つ目は、「頂きたく」とへりくだった表現の謙譲語を、他の敬語と合わせて使用して、くどい印象を与えることです。

「拝見させて頂きたく」なら「拝見したく」、「お伺いさせて頂く」は「お伺いしたく」と伝えたほうが良い印象を与えられるでしょう。

丁寧すぎる

2つ目は、相手にとって当たり前の行いなのに、わざわざ「頂きたく」を使ったために、丁寧すぎて無礼な印象を与えることです。

たとえば、「返信させて頂きたく存じます」は「返信いたします」で十分です。自分のメール返信が相手にとっても当たり前で、許可なくしても何ら失礼に当たらないためです。

言い切ってしまう

3つ目は、相手の許可を得てから行動するべき場面を、「頂きたく存じます」と伝え、相手の許可なく勝手にやりますよと言い切ってしまうことです。

「お休みさせて頂きたく存じます」を例に考えてみましょう。

体調不良など止むを得ない事情で、有給休暇を使って休むのだから、相手の許可は必要ないと考える人もいるかもしれません。

しかし、休んだ日の業務を誰かが代行してくれるなど、周囲への影響を考えると、「お休みを頂いてもよろしいでしょうか」と、意向を尋ねる表現が適切です。

なお、1つの文書のなかに、「頂きたく」が乱用されている場合、間違いではありませんが「お願い事ばかり」の印象を与えかねないため、注意してください。

まとめ

「頂きたく」は、ビジネスシーンでよく使用される言葉で、誰かに「〜してもらいたい」、「〜してほしい」とお願いをする敬語に当たります。

「頂きたく」を上手く使っている人は、相手にスマートな印象を与えます。一方で、間違った使い方をすると「失礼な人」、「非常識」など評価が下がる可能性もあります。

「頂きたく」の使い方に自信がない方は、本記事を参考に使い方を見直してみてください。